

第2回江南市SDGs未来都市計画推進協議会 議事要旨

日時 令和8年2月3日(火) 10:30~11:25

会場 江南市役所 3階 第3委員会室

出席者 出席委員8名

■委員

〈会長〉	加藤 幸治	江南市都市計画審議会
	大野 真司	江南商工会議所
	杓名 珠子	江南市子ども・子育て会議
	鈴木 秀明	江南市社会福祉協議会
	高田 大覚	愛知県宅地建物取引業協会
	人見 浩司	名古屋経済大学
	松本 梨枝	公募市民
	吉田 勝好	スターキャット株式会社

■傍聴者

なし

◆議題

1 開会

2 議題

- (1) 江南市SDGs未来都市計画について
- (2) 江南市SDGs官民共創プラットフォームについて
- (3) 来年度の本協議会の運営について
- (4) その他

<配付資料>

- | | |
|-------|------------------------------|
| 資料1 | 委員名簿 |
| 資料2 | 設置要綱 |
| 資料3-1 | 江南市SDGs未来都市計画の進捗評価について |
| 資料3-2 | 江南市SDGs未来都市等進捗評価資料 |
| 資料4 | 江南市SDGs官民共創プラットフォームについて |
| 資料5 | 来年度の本協議会の運営について |
| 資料6 | クローズドマーケット(社会貢献型職域販売サイト)について |

その他資料 江南市SDGs登録制度チラシ
江南市SDGsパートナー一覧

◆会議結果

1 開会

2 議題

(1) 江南市SDGs未来都市計画について

(事務局) ～「資料3-1 江南市SDGs未来都市計画の進捗評価について」「資料3-2 江南市SDGs未来都市等進捗評価資料」「資料3-3 江南市SDGs未来都市計画 改定新旧対照表」について事務局から説明～

(2) 江南市SDGs官民共創プラットフォームについて

(事務局) ～「資料4 江南市SDGs官民共創プラットフォームについて」事務局から説明～

(委員) パートナーが集まる交流会での課題として、対面でお互いの業種や強みを話して終わってしまうことが挙げられる。会社の業種や強みを一覧にするカオスマップを作成することで、行政としてもどのパートナーにどのようにアプローチすればいいか明確になる。民間部門同士の連携でも、課題解決に向けてカオスマップを活用することで連携しやすくなるのではないか。

(事務局) 市民の声を集約して地域課題として言語化し、何をどのように解決したいのか分かりやすくアピールすることや、お互いの強み・弱みを明確にすることは大事だと考えている。先に紹介した事例の中で、(株)平和堂 江南店との連携事業である「MANPO de ウォークラリー」は、交流会を契機に当該企業社員と市の担当職員が連携して実施した事業である。紹介いただいたカオスマップについては、今後施策を展開する際の参考とさせていただく。

(会長) まだ始まったばかりの仕組みであるので、今後も企業等とのコミュニケーションを取りながら進めて欲しい。

(委員) スマートフォンでポータルサイトを見る際に、画面が拡大できず分かりづらい部分もあるため、成果を対外的にPRしていくためにも見やすさについては検討して欲しい。

(委員) マッチングとコーディネートの違いとして、マッチングは双方が了承すれば成立するが、コーディネートは関係性を繋ぎながら連携を進めていく難しさがあると考えており、12件の連携事業を積み重ねるのに相当な時間を要したと推察する。

現状、課題提出者は市が中心になっているが、今後はパートナーも課題を提出できるということをホームページ以外のところでも周知をすることにより、双方が課題提出・資源提供をすることで持続可能な展開となっていくのではないか。

(事務局) 前回協議会で、イベント等は市民に周知をするようにとご意見をいただいたため、学校から周知をしていただいた。

また、広報こうなん3月号で市民向けにマッチング事例を紹介する特集ページを掲載する予定であり、マッチングによって主に市民にどのような影響があったのか知ってもらうことや、連携して取り組んだパートナーのモチベーション向上の狙いもある。

今後は多様な世代の方に周知できるようSNS等の活用についても検討を進めていく。

コーディネートについては、受託事業者のコーディネーターと情報共有しながら進めているが、ボランティアの視点から社会福祉協議会とも情報交換しながら施策に落とし込んでいきたいと考えている。

(3) 来年度の本協議会の運営について

(事務局) ～「資料5 来年度の本協議会の運営について」事務局から説明～

(委員) 本協議会が廃止され、委員は新しく設置される市民会議に所属することになるのか。

(事務局) 今年度設置したばかりの会議が形を変えることになるが、来年度から総合計画を策定するための市民会議が設置され、同じ委員の方に重複した内容を協議していただく等非効率な部分もあるため、皆さんには市民会議の委員として引き続き参画していただきたいと考えている。会議内容や会議回数が変更になるため、また改めて個別に依頼をする。

(会長) 市民会議は分野別に分科会に分かれて協議した内容を総合計画に反映する形態のため、皆さんにも引き続き参画していただきたい。

(委員) SDGs 未来都市計画やプラットフォームの運用については、市民会議の中で議論されていくのか。

(事務局) SDGs 未来都市計画については、進捗評価を市民会議の各分科会でその分野に沿った内容について評価していただくことになる。プラットフォームの運用についても、市民会議の中で議論していただくことになる。議論する場として、企画課が属する行政分野の分科会のみにするのか等については今後整理する。

(4) その他

(事務局) ～「資料6 クローズドマート（社会貢献型職域販売サイト）について」事務局から説明～

(委員) どのような商品が出品されているのか

(事務局) パートナー増加数が鈍化している状況で、パートナー登録のメリット拡大を検討する中で本サービスを導入した。

具体的な商品として、例えば賞味期限が近い食品や家電等があり、ロスを防ぐことができる。パートナーとしては、社員の福利厚生の実施というメリットがある。市は、パートナーが本サービスを利用した金額の3%を寄附として受領することができ、まちづくりに役立てることで地域循環に資する仕組みである。

(会長) 従業員が100名以上の企業・団体しか利用できないのか。

(事務局) 本来は従業員100名以上の企業・団体しか利用できないサービスだが、市のパートナーであれば従業員数の基準を満たしていなくても利用可能となる。

(委員) 出品をすることはできるのか。

(事務局) 内容によるが、出品の相談に応じることはできると事業者からは伺っている。地場産品の出品希望があれば、ご相談いただきたい。

本サービスのホームページによると、コストをかけて処分している商品が無償又は有償で引き受けるが、中古や個人からの戻り品は不可と記載されている。

以上